

南魚沼市民病院

認知症疾患医療センター

理 念

私たちは、自然のうるおいの中で人それぞれの希望に満ちたくらしを支え地域医療を推進します

基本方針

- 1 市民の安全・安心を支える医療を提供します。
- 2 患者さん中心のチーム医療を推進します。
- 3 健康増進を目指し、予防医療の充実を図ります。
- 4 確かな知識と技術を有する心豊かな医療人を育成します。
- 5 良質な医療を継続するため、経営の健全化に努めます。

南魚沼市民病院認知症疾患医療センター
〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町 2643 番地 1
電話: 025-788-1222 (代表)
電話: 025-772-2604 (直通)
FAX: 025-772-2603

今年もよろしくお願ひいたします



『認知症とは』

認知症疾患医療センター長 宮永和夫



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、当センターの電話相談や来所相談数は毎年増加し続けています。さらに、昨年度から若年認知症コーディネーターと認知症初期支援チームに関わる新規事業も加わり、活動がさらに拡大しております。

ところで、認知症についてですが、恥として隠す病気ではなく、皆がなる普通の病気として、予防すべき病気の仲間へと意識が変わってきたようです。運動や食事など日常生活を改善することでの予防活動、「脳力」アップやアンチエイジング(抗加齢・抗老化)など、さらなる健康増進を図ろうとする取り組みについての記事は、テレビや新聞、雑誌で見かけない日はありません。

しかし、実際には病気になって仕事や家庭生活が困難になる方もいますし進行・悪化して、家庭生活自体が送れなくなった方もいます。当センターでは、メモリークリニック(物忘れ外来)を通じて、早期発見・早期治療ばかりでなく、途中にみられる生活上の色々なトラブルについてもご相談をお受けしていますので、是非ご活用頂きたいと思ひます。

さて、南魚沼市が抱える認知症の問題として、デイサービスやデイケアといった通所サービスの受け入れとともに、福祉施設への入所が非常に困難になっている事情があります。当病院群の一つのゆきぐに大和病院に以前あった38床の療養病床は、隣の魚沼市が肩代わりするとの約束で、地域医療整備計画により2年前に廃止されました。今存在していれば、少しは入所者の緩和に役立てられたかもしれませんが、近未来を考えると、焼け石に水の感は拭えません。入所施設は今後20年間圧倒的に足りなくなる予測があります。当病院は生活するところではなく、治療をするところですから、入院された方は、当然のことですが自宅や施設への退院を目指しています。しかし、このような状況では帰ることが困難になり、結果、新しい患者さんの受け入れが出来なくなる訳です。

以上の事情を考えますと、当センターの役割はますます重要になると思われまひます。認知症になっても自宅にいられるようより細かな対応を提案させて頂いたり、認知症になる前の予防方法を具体的に提案して認知症の発症年齢を遅らせるなど、院内だけでなく院外への活動も大切でひます。今年も昨年以上に地域の皆様には色々な情報を提供させて頂こうと思ひておひますので、ご支援、ご協力をお願ひ申し上げます。



12/9 市民講演会(報告)

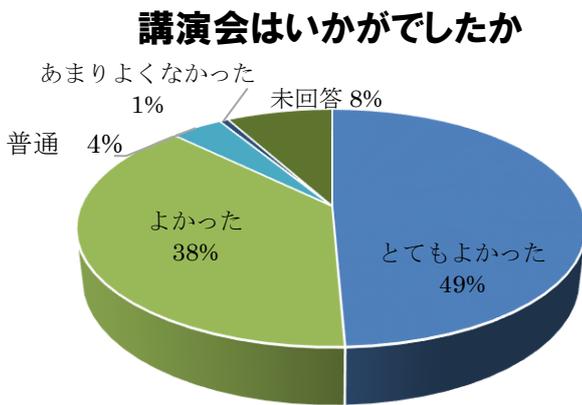
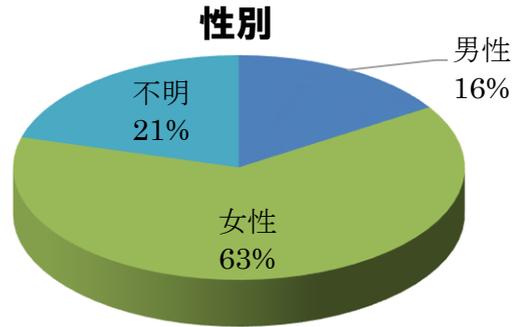
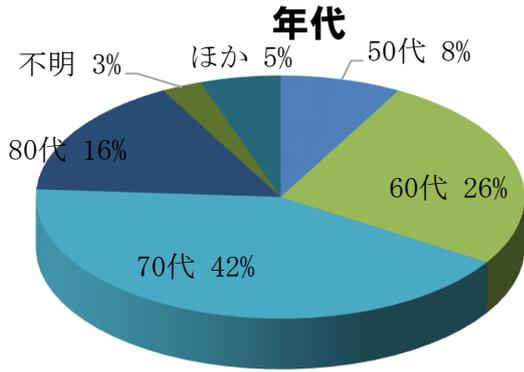
この時期としてはめずらしく降雪がなく天候に恵まれた12月9日。南魚沼市民会館にて「市民講演会」を開催しました。市民300人余が集まり、200人で満席の多目的ホールは椅子が足りずスタッフは大わらわでした。

今回は「笑いで認知症予防」をテーマに講師お二人においでいただきました。都立松沢病院の新里先生には笑いの効用と認知症という病気の理解についてのお話。Dカフェnet代表の竹内さんには、認知症の人の世界と、かかわり方のポイントをわかりやすく教えていただきました。また目黒区で行っている認知症カフェを紹介していただきました。Dカフェの”D”とはDementia（認知症）・誰でも・District（地域）の頭文字をとって名付けたそうです。認知症の人も家族も、障がいを持った人もそうでない人も、それぞれの個性を知り認め合うことでみんなが暮らしやすい地域になる！という希望が持てるお話でした。最後は新里先生の迫力ある落語で楽しみました。今後も楽しくてためになる講演会を計画していきたいと思えます。



認知症のケアのキーワードは・・・3つ
"3秒ルール"、"オウム返し"、"小さな満足"、

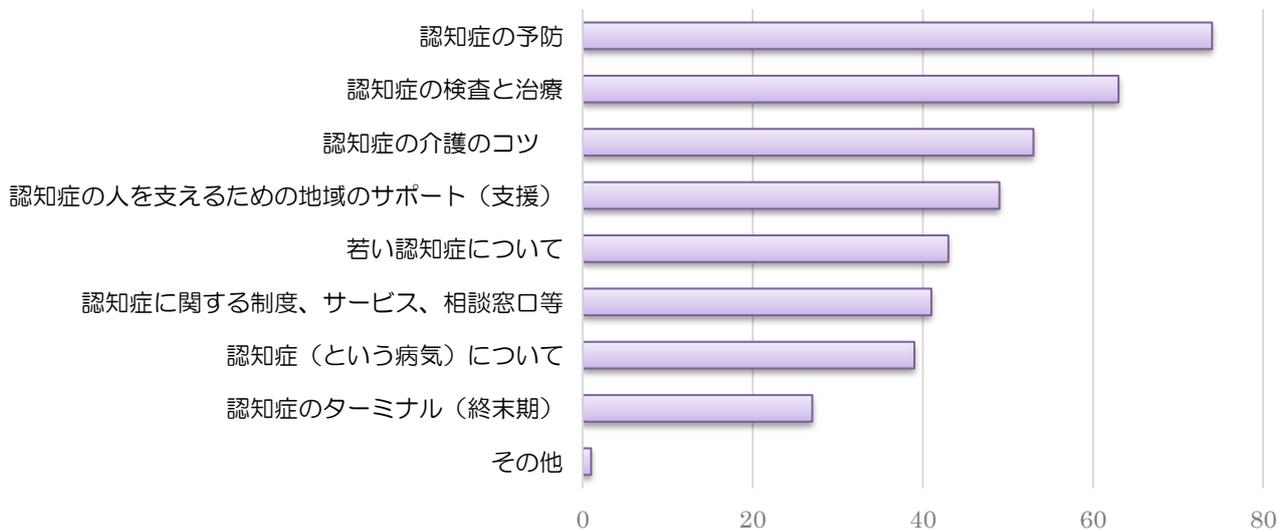
講演会アンケート結果150人



まとめ

- ・参加者は約 280 人。テーマへの関心が高かったためか目標 200 人を大幅に上回りました。
- ・年齢では 60 代、70 代が多いと思われました。
- ・アンケート回収率は 5 割。講演時間が延長し帰りを急いだためと考えられます。
- ・アンケートの回答者は女性が 63%、男性は 16%。全体の感想としては「とても良かった」「よかった」と答えた人は合わせて 87%でした。50 代以上で評価が高い傾向があるようです。
- ・講演会で希望する内容としては、予防、検査、治療、介護のコツの順に多くなっています。

今後どのような内容の講演会を希望しますか（複数回答）



感想や意見

- ・実際に認知症のケアをされてこられた方のお話は分かり易かった。新里先生の落語は素晴らしかったです!! (60代男性)
- ・これから自分も家族もなるかもしれない認知症のことをわかりやすく教えて頂き大変良かったです。3秒ルールやオウム返しは、年を取った私達(夫婦)には仲良く過ごせる秘訣かも。(70代女性)
- ・とても良いお話だったので、概略などをまとめて市報などに掲載すると良いと思う。そなえ(助け)あれば憂い少なし(50代男性)
- ・認知症カフェについて日頃より興味がありましたが、出かけることに躊躇していました。これから出かけてみます (60代女性)
- ・認知症カフェを行っているが、竹内さんのDカフェで精神疾患の方も受け入れているとありました。共生社会を目指す中では、高齢者も障害者も子供も共に過ごせる場が必要だと実感しています (60代女性)
- ・6年ほど前、認知症の介護、大変でした。苦労しました。もっと知識があれば…少しは“母”にいいことができたと思います。今日の講演の知識等あれば…と残念に思います。(60代男性)
- ・2年前102歳の義父の介護を自宅で終末までしました。その頃お話を聞いていたら、もっと父とうまく生活できたかな?と思います。1人で介護していました。(70代女性・介護経験者)
- ・数十年認知症の介護をしました。もっと早く今の様なお話をうかがいたかったです。亡くなってから7年になります。まるで反対のことをしていたようです。(80代女性・介護経験者)
- ・40年来の付き合いのある人に認知症が始まりました。毎週1回必ず顔を合わせるのに、どう向き合ったらよいか分からず戸惑っていましたが、竹内氏の話聞き糸口がつかめました。ありがとうございました。(60代)
- ・参考になりました。自分が認知症にならないよう日常生活、毎日きまり正しい生活をしていきたいと思います。(70代女性)

若年性認知症支援コーディネーター事業紹介

当センターは平成29年4月に新潟県より若年性認知症支援コーディネーター事業を開始しました。

コーディネーターは認知症専門の看護師で昨年9月に研修を終えました。12月13日には3市2町の関係者に集まっておいただき「若年認知症支援ネットワーク会議」を開催しました。県高齢福祉保健課の高橋さんから「新潟県の若年認知症対策」についての話、当センターの岡村コーディネーターより「若年認知症コーディネーターの役割」について説明しました。そのあと研修会として「若年認知症の理解と対策」についてセンター長の宮永医師の講話を聞き若年認知症についての理解を深めました。最後に参加者全員で情報交換を行い現状と課題を出し合いました。魚沼地域では当事者からの相談は少なく把握ができていないというお話でしたが「旗を揚げれば出てきますよ」という宮永医師のアドバイスがありました。それぞれの地域にはまだ誰にも相談できず悩んでいる人がいるかもしれません。身近でキャッチしていただきご相談いただければと思います。皆様のご指導や助言を受けながら、一人ひとりに丁寧にかかわっていきたく思います。よろしくお願いたします。



若年性認知症支援コーディネーター
岡村真由美

